

## 肺血栓塞栓症について

皆さんは、「肺血栓塞栓症」という病名を聞いたことはありますか？

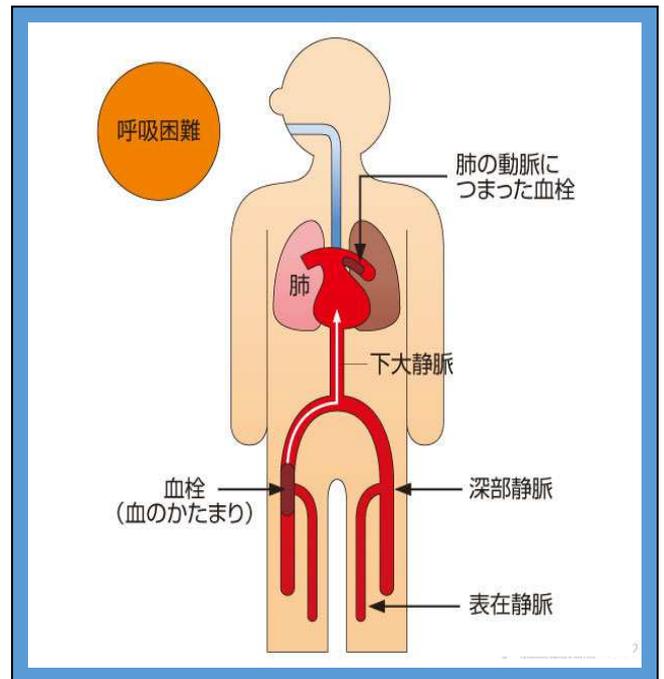
「エコミー症候群」という名前ではどうでしょうか？  
だいぶ前になりますがサッカー選手が飛行機に乗っていてエコミー症候群になったとことがニュースになっていました。また最近では熊本地震の際、車に避難されていた方が「エコミー症候群」で亡くなられたというニュースを耳にされた方もいるかもしれません。

今回は肺血栓塞栓症という病気とその対策についてお話ししたいと思います。

血液はもともと固まりやすい性質を持っています。入院中に治療や、手術などにより足を動かさない、動かせない状況が続くと下肢の血管の中で血の塊(血栓)が出来やすくなります。その血栓が血液の流れに乗って肺まで届き肺の血管を塞ぐことにより細胞を壊死させてしまう病気です。

肺の細胞が壊死(死んでしまう)するので酸素を十分に取り入れられずに息苦しくなったり意識が無くなったり場合によっては死亡することもあります。

下肢などの深部静脈血栓を作らないことがつまり肺血栓塞栓症の予防にもなります。そこで特に手術期には発生のリスクが高まるため当院では深部静脈血栓症の防対策を行なっています。

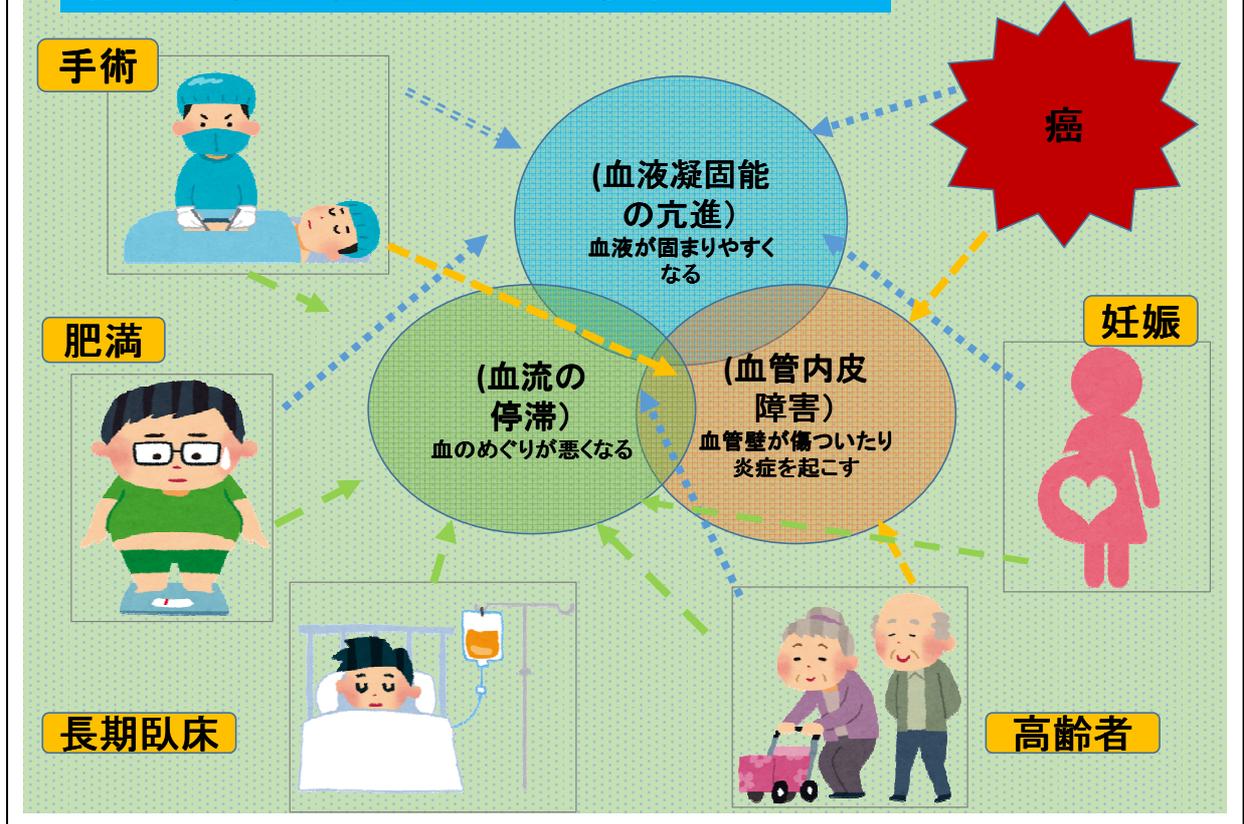


## 肺血栓塞栓症になりやすい要因は？

- 1、血液が固まりやすい状態 (血液凝固機能の亢進)
- 2、血の巡りが悪い状態 (血流の停滞)
- 3、血管の内壁が傷ついたり炎症を起こしたりしている状態 (血管内皮障害)

これらの要因が重なりその結果血栓が出来やすくなるのです。

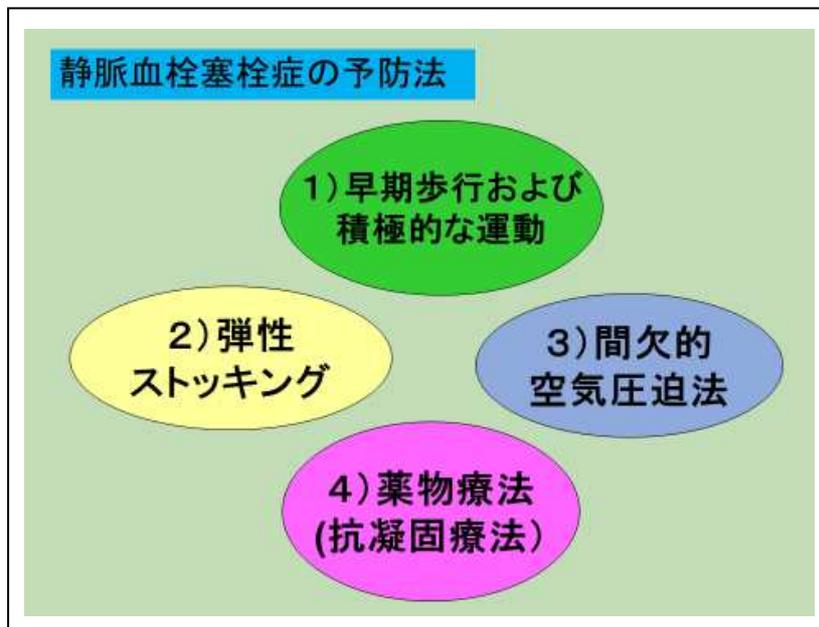
## 静脈血栓塞栓症の3つの要因とリスク



そこで手術を受ける患者様には問診を行いリスクがあるのかどうかの確認を致します。  
リスクがあると思われる患者様には必要に応じて詳しい検査をさせていただきます。  
患者様の状態だけでなく手術方法や手術の時間によってもリスクの程度が変わりま

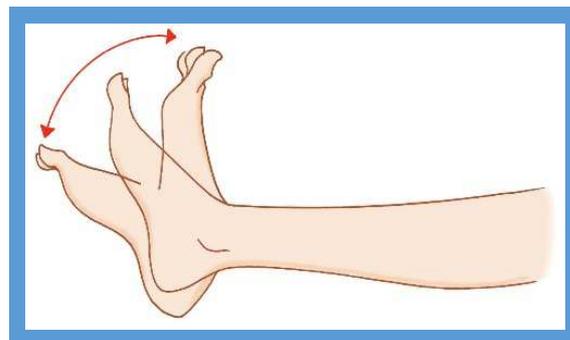
## 肺血栓塞栓症の予防について

患者様の既往や手術の術式や様々なリスク因子を評価して患者様に合わせた対策を医師が指示します。主な対策は次の4つになります。



## 1) 早期歩行と積極的足の運動

足は第2に心臓と言われています。歩いたり、足首を動かしたりすることでふくらはぎの筋肉が動きまわります。その筋肉の動きがポンプ作用となり血管内の血液を押し出す働きをしているのです。そのため足を動かすことが一番の予防であると言えます



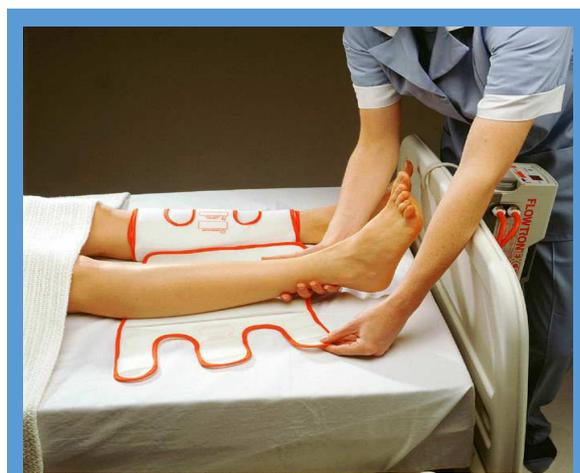
## 2) 弾性ストッキング

足首から膝にかけて、段階的に圧を高くする事で血流を促す作用があります。



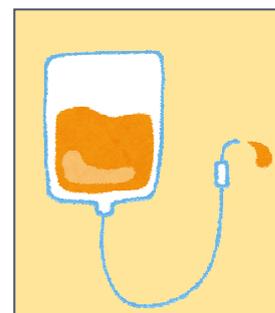
## 3) 間欠的空気圧迫法

空気によって、足に巻いたカフを定期的に膨張・収縮する力を利用して血液を心臓に向かって押し出すシステムです



## 4) お薬 抗凝固薬

抗凝固薬(血液を固まり難くする薬)の点滴や飲み薬を利用して血栓(血の塊)が出来るのを防ぐ方法です



患者様の体の状況や手術方法によっても予防方法は変わります。また予防方法にはお薬であれば副作用が他の機器や器具を使用するときには合併症のリスクもあります。これらを考慮して患者様ごとに医師から指示を受け対応します。わからないこと心配なことがあれば担当医師または看護師にお声かけ下さい